



令和三年十二月十六日 第十五号
岩國白蛇神社崇敬会会報

◎今年度に斎行された祭典・行事

【月次祭】四月～十月(月二回)

※参列者の延べ人数は一六八名でした。

【四月】令和三年度

昭和祭(二十九日、六名)・神社会計監査(二十二日)

【五月】

第十一回総代会(十五日、十二名)

【六月】

崇敬会会計監査(二十二日)

夏越し大祓(三十日、十六名)

【七月】

白蛇神社崇敬会役員会(十七日、八名)

【八月】

大掃除(八日)・白蛇供養祭(十六日)

※保存会主催

【十月】

マウス供養祭(九日) ※保存会主催
神宮神嘗奉祝祭(十七日、四名)

【十一月】

明治祭(三日、十二名)・新嘗祭(二十三日)

【十二月】

大掃除(十二日)・例祭(十六日)
年越大祓(三十一日)

【一月】※予定

歳旦祭(一日)・元始祭(三日)

【二月】※予定

節分祭(三日)・紀元節祭(十一日)

祈年祭(十七日)

天長節祭(二十三日)

【御鎮座十年祭について】

平成二十四年十二月十六日の御鎮座大祭から十年目を迎へる今年は、大きな節目の例祭となります。昨年はコロナ禍中であり、「天井画奉納奉告祭」を併せて斎行したこともあり、参列者数を制限し午後三時からでしたが、本年の十年祭は例年通りの午前十時からの祭典となります。



尚、当日の準備の都合により、御案内を一カ月前に総代・崇敬者の方々に送付します。同封の葉書にて出欠の御返信をお願い致します。《上の写真は昨年の例祭》

◎来年度(令和四年度)

※予定

【四月】

昭和祭(二十九日)・総代会(未定)

【五月】

端午の節句祭(五日)・今津山手しろへび祭(十五日)

【六月】

夏越しの大祓(三十日)

【七月】

七夕祭・崇敬会役員会(未定)

【八月】

大掃除(十四日)

白蛇供養祭(十六日)

【十月】

マウス供養祭(十日)・神宮神嘗奉祝祭(十七日)

【十一月】

明治祭(三日)・新嘗祭(二十三日)

【十二月】

大掃除(十一日)・例祭(十六日)・年越大祓(三十一日)

【一月】

歳旦祭(一日)・元始祭(三日)

【二月】

節分祭(三日)・紀元節祭(十一日)・祈年祭(十七日)・天長節祭(二十三日)

【三月】

雛祭(三日)



■令和四年の月次祭

(月二回巳の日、九時半より)

【一月】	十六日(日)・二十八日(金)
【二月】	九日(水)・二十一日(月)
【三月】	五日(土)・二十九日(火)
【四月】	十日(日)・二十二日(金)
【五月】	十六日(月)・二十八日(土)
【六月】	九日(木)・二十一日(火)
【七月】	三日(日)・二十七日(水)
【八月】	八日(月)・二十日(土)
【九月】	一日(木)・二十五日(日)
【十月】	七日(金)・三十一日(月)
【十一月】	十二日(土)・二十四日(木)
【十二月】	六日(火)・三十日(金)

※ 一月と五月の月次祭は、月初めの巳の日ではないのでご注意ください。

令和四年厄年表(数へ年)

【男性】

本厄	二十五歳 (平成十年生)
	四十二歳 (昭和五十六年生)
	六十一歳 (昭和三十七年生)

【女性】

本厄	十九歳 (平成十六年生)
	三十三歳 (平成二年生)
	三十七歳 (昭和六十一年生)

当神社での厄祓祈願を希望される方は、事前に御予約をお願い致します。

祈願された方には、祈禱した本札と御守・撤饌等が授与されます。

【崇敬会会員継続のお願い】

来年度(令和四年度)の会員継続の方のために払込取扱票を同封しましたので、宜しくお願ひ致します。
なお、会費の納入については、社務所でも承つてをります。

「新しい御札をお祀りませう」

新年を迎へるにあたり、神棚を清め、新たに受けられた御札をお祀りします。新しい御札には、この一年をお守りいただく御神霊の力が宿されてゐます。

お伊勢さまの御札(神宮大麻)を受けられる方はお申し出ください。
今までお祀りしてゐた御札は、過ぎし一年が無事に過ごせたことに感謝し神社に納めます。社務所には一月九日までにご持参ください。お焚きあげします。



上の神宮大麻と当社のお札と一緒に受けられた方には、伊勢名物の「御神酒飴」(甘酒味)を授与します。



御神酒飴



【令和三年度崇敬会役員会】

七月十七日(土)

六月二十二日崇敬会の監事である中村洋子さんと二宮奈緒美さんに令和二年度の崇敬会の会計監査をお願いしました。出納簿・関係諸帳簿・領収書・預金通帳等の監査をして頂きました。その結果、いづれも誤りのないことを確認し、七月十七日の役員会にて報告して貰いました。

尚、差引残高六十六万二千八百円については、三年度に繰越すこととしました。

また、今年度の事業として、本殿・西側標柱・御神木への注連縄を寄進することとなりました。この十二月十六日までは設置する計画です。

また、御承知のやうに「御鎮座十年記念事業」として、社号標建立基金を会員の方々から募集することも決められました。この基金への会員各位から寄せられた募金も目標額に達し、今年中には建立されます。

〔令和2年度崇敬会収支決算書〕

《歳入》・振替入金額	¥ 626,000
・預金入金額	¥ 265,000
・前年度繰越	¥ 342,614
合 計	¥ 1,233,614
《歳出》・振替手数料	¥ 27,250
・郵送関係費	¥ 50,859
・会議費	¥ 15,167
・会報等印刷費	¥ 30,820
・境内地整備費	¥ 129,690
・神社への奉納	¥ 200,000
・入会記念品代	¥ 50,655
・諸雑費	¥ 67,155
合 計	¥ 571,596

【「神社本庁史稿」解説】(十)

《元号法制化の実現》

①五十万人署名運動の開始

https://www.shirohebijinja.com

昭和五十年代に入ると天皇陛下御在位五十年奉祝運動の一つとして元号法制化の運動が開始され、全国氏子青年協議会をはじめ神社本庁六指定団体が統一運動として元号法制化を目指す五十万人署名活動が始まった。

②元号法制化実現国民会議の結成

紀元節復活運動をきっかけに昭和四十四年に結成された神道政治連盟と、一部の自由民主党を中心とした神政連国會議員懇談会が連携して時の政府を追及・鞭撻した努力により「元号法制化実現国民会議」が結成され、また、地方においても県民会議が作られ、昭和五十三年十二月には法制化を政府提案するまでに持ち込んだ。

③昭和五十四年六月十二日公布施行

自民党・民社党・新自由クラブ三党が政府案に賛成、国民会議のキャラバン隊などの活躍もあり、昭和五十四年、社会党・共産党の激しい抵抗を排除しながら法案は国会において優先審議され、ついに六月六日の参議院本会議において可決された。

【社号標建立基金奉納者一覧】

(敬称略)

守川広昭・藏重博巳・木村優子

藏重秀子・井勝史朗・幸田禎浩

村田雅子・斎藤政則・猫本宏司

山田興亜・米屋利彦・大黒英子

森橋新一郎・森橋重元・加藤木千恵

香川哲範・中川日出男・中川敏子

大島雅章・室田浩・藏重昂之

(株)アートウェーブ・尾下隆史・

(株)カネトモ・河崎美須子・宮坂興司

片山義規・林野弘子・八木主計

中道崇志・末川等・緒方守・中本敏行

中本友子・三国修三・森橋秀夫

善本敏雄・竹田敏彦・吉田洋

中村裕行・末川欣司・平田光寛

岡本工業(株)・エビスヤ電器・小林允

小林美智代・今津山手商工連盟

玉城政暢・榎本幸子・立木一豪

小西一成・三平雅宣・藤本奈緒

國沢和孝・末川房子・村岡敏夫

平山隆男・中村洋子・末川洋子

末川貴一郎・末川萌音・末川沙希

平田京・内山咲子・伊達明彦

山本尚子・大倉栄治・高橋文子

松本健吾・澄川輝太郎・赤堀政幸

村上隆彦・村上泰弘・村上尚代

廣瀬義弘・横川みどり・中芝輝久

河崎運輸機工(株)・中川節美

福永公治・藤本麻利子・森橋宏之

岩国自動車関係業者協同組合

山下雅史・松村與志弘・栗栖康輔

三好望美・高橋秀平・商工会議所

村田光洋・藤本明子・小谷勝昭

小谷恵子・小谷淳治・西山典子

藤本久美子・新川松三・香川俊文

(株)KRC岩国支社・川戸謙一

松島靖昭・岩井克公・荒川五郎

玉元啓夫・岡崎光次・堂山圭介

向井勝則・向井由美子・成塚弘美

村田成行・北岡博士・東川純一

村田由紀子・柏木理恵子・岡寄義一

明石幸恵・品川充洋・末廣嵩史

藤伊宅水・栗栖晃子・田中みづほ

田中大介・八百新酒造(株)

森橋律夫いとこ会・河崎美須子

山本隆祥・三谷信子・森橋秀夫

森橋重元・村上昭博・中川隆裕

佐伯美保・カーやよい・加藤壽子

林隆宏・濱田久男・濱田容子

野村英子・穂本恵一・清原一成

金友有里子・山科健治・川越博之

松下千華・川内保幸・弘中淨月

藤中節子・菊池典子〔順不同〕

〔令和三年十一月八日現在〕

※鎮座十年祭記念事業として行はれた

「社号標建立基金」へ

応募された右記の方々

へのお礼状等は十二月

末に発送致します。

有難う御座いました。



《続く》

カレンダーを頒布してゐます

○ 皇室カレンダー「皇室御一家」

1000円

○ お伊勢さまカレンダー（奉賛こよみ）

700円

○ 靖国神社カレンダー

（英霊にこたえる会）

500円

※ 数に限りがありますので、お早めにお申し出ください。



実際の白蛇の孵化の写真

《白蛇についての創作民話》紹介（Ⅱ）

『一実録―岩国白蛇物語』

金田 惺作

昔、むかしといっても、今から二百八十年ばかり前のことです。現在の美和町、栗で有名な「岸根村・固屋垣内」という山奥に、七軒の百姓が一つの部落を組んでおりました。その中の一番上の家が太作じいさんとツネばあさんの家で、少々雨もりのする茅葺屋根の小屋裏に生まれた卵の中で「白蛇・浩蛇」は五十五日が過ぎて、卵の中がきゅうくつになり「卵歯」という歯も生えてきましたので、孵化する決意をしました。

蛇の誕生とは、鳥のように殻を割ればよいわけではありません。蛇の卵は蚕の「まゆ」のように軟らかいので、切り裂いて出なければなりません。そこで、卵歯の出番です。上顎

に生えた一本の卵歯で、一生懸命二切ること五時間、ようやく頭の大きさの穴となりました。頭が出れば長い体は難なく出られます。役目を終えた歯は、ぽろりと抜け落ちました。こうして「人蛇共同社会」へ、こんにちををしたのです。体長は三十センチほどでした。卵の中に養分が充分ありましたので、一カ月間は何も食べなくても腹はすきません。

浩蛇が孵化した隣には、二つの卵の殻がありました。ツネばあさんの話によると、先に孵化したのは雌で、次が雄であったそうです。姉は蛙やオタマジャクシのいる上の藪に、兄は川向かいの家に向かったそうです。したがって浩蛇は三姉弟の「おとんべえ」ということになります。蛇族は親子兄弟が分かりません。母は卵を産みますが、温めるでもなく、乳をくれるわけでもありません。卵を産んで六十日もすれば、どこに産んだかも忘れます。

「完」

【社報で推薦した図書一覧】

令和三年七月号／令和三年十二月号

○ 『この国の希望のかたち』

『新日本文明の可能性』

一五四〇円

伊勢雅臣著、グッドブックス

○ 『赤い日本』

九六八円

櫻井よしこ著 産経新聞出版

○ 『日本がもっと好きになる神道と仏教の話』

六二〇円（＋税）

竹田恒泰・塩沼亮潤著、PHP文庫

○ 『フェイクニュースを見破る武器としての理系思考』

一四〇〇円＋税

武田邦彦著、ビジネス社

○ 『誰があなたを護るのか』

―不安の時代の皇―

扶桑社、一七六〇円

原作・青山繁晴、監修・新田均
作画・ヒロカネプロダクション

○ 『國憂ヘテ已マズ』

一六〇〇円＋税

○ 『なぜ女系天皇で日本が減ぶのか』

一六五〇円

門田隆将・竹田恒泰 著、ビジネス社

○ 『神道の逆襲』

八八〇円＋税

菅野覚明著、講談社現代新書

○ 『イスラム教再考』

八八〇円＋税

―十八億人が信仰する世界宗教の実相―

飯山陽著、扶桑社新書

この十二月十六日の例祭（十年祭）の御案内と出欠の葉書を同封しましたので、宜しくお願ひ申しあげます。会員の皆様には、来る令和四年が良き年となりますよう御祈念申しあげます。